

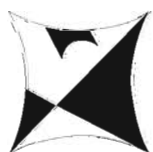


# 第56回全道造形教育研究大会札幌大会 特集



<目次>

・大会風景<表紙>..... 1	・札幌大会に寄せて..... 4~7
・大会実行委員長あいさつ..... 2	・次期大会(釧路大会)予告..... 8
・大会を振り返って(大会研究部長)..... 3	



**北海道  
造形教育  
連盟報**

No.123 2006.12.14発行  
 発行 北海道造形教育連盟  
 委員長 今 裕子  
 事務局 札幌市立前田北小学校 菅原 清貴  
 〒006-0820  
 札幌市手稲区前田10条18丁目4-1  
 TEL684-0123・FAX684-3497



## 函館 → 札幌 → 釧路につなぐ大会を終えて

第56回全道造形教育研究大会・札幌大会  
実行委員長 菅原 清貴  
(札幌市立前田北小学校)

今年の札幌の夏は、真夏日が続き北国の夏らしからぬ日々でした。きっと札幌の造形教育の仲間が大会開催に燃えた分、太陽様が頑張ったのだらうと思いたくなるほど熱中した大会でした。

さて、「学力低下」論議の渦中で「ゆとり教育」からの転換を図る学習指導要領の改訂が目前に迫っています。「読み・書き・計算」を中心とする「基礎学力」の向上や、国際化の観点から小学校における英語学習の導入など、限られた年間時数を「時代が求める」内容に重点化されると予想されます。本大会を前に図画工作科・美術科の在り様も中教審においてテーブルに上がり、さらなる年間時数の削減等が危惧される中での開催でした。

わたしたちは、これまでも子ども達の感性を育み、豊かな情操を培うことに直結する造形教育の大切さを訴え続けてきました。しかし、時代の流れは意外にもそれを軽視する方向に動いているとしか思えない状況です。

### ●徹底的に「子どもに寄り添う授業」を公開

“子ども一人一人の価値を教師や友達から認められ、自分自身と向き合うことで、より人間的な在り方や表現を求める教科”と本連盟では位置づけています。

2003年に、全道の先生のご協力をいただき「北海道の子ども達の現状を捉えるためのアンケート」を実施し、その土台の上に「3つの扉」(くらしと造形・こころと造形・つながる造形)を設定し、子ども達の実態から出発した全校種合同の研究集団が大会の研究を支えました。この3つの扉では、「造形のWA」による「魅力的な題材」の開発を目標に実践を重ねました。昨年度はプレ大会を全ての校種で開催し、「子どもに寄り添う授業=こども主義の授業」を合言葉に研究の土台を築きました。

大会1日目は、札幌市立澄川西小学校を会場に、全校種の授業を、開始時間に差を設けながら展開しました。会場校児童全員による「全校造形」は勿論のこと、全ての教室から子ども達の花開くいきいきとした瞳が溢れ、各扉が設定した目標に向かう授業が展開されました。

開会集会では、ご来賓でお招きした文部科学省教科調査官の奥村高明氏より授業のご講評をいただきました。子どもに寄り添う授業の実際について、ご示唆と同時に励ましのお言葉をいただき、私達の指導の構築に対し大きな自信となりました。



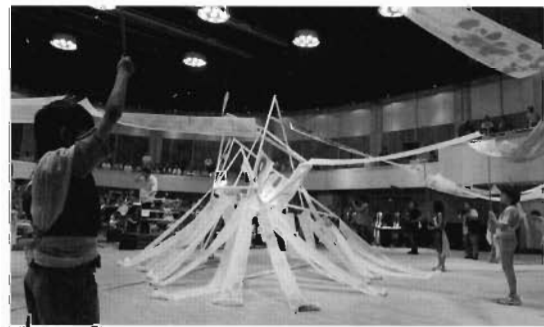
●澄川西小の全児童参加による全校造形の様子

### ●開かれた大会…オーケストラとのコラボレーションも

大会2日目は、札幌市が誇る芸術の殿堂「札幌芸術の森」に会場を移し、パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会の協力を得て、音楽と造形教育の共演を試みました。この取組みは、全国的にも例を見ないのであり、本連盟のホームページをみて関心を抱いた北陸の先生なども遠路お出でいただき、「大変素晴らしい取組みでした」と感想をいただきました。

また、映画「トントンゴギゴ工の時間」を制作された野中真理子監督をお招きしての上映会とトークセッションの企画には、大学の授業の合間を縫い全国造形教育連盟の富安敬二委員長もご参加くださり、造形教育の価値をあらためて確認できた貴重なひと時となりました。

これらのイベントは、広く道民・市民にも参加を働きかけ、開かれた大会をめざす具体的な取組みとして計画・実施されました。



●P M Fとの協力で実現した、オーケストラと造形表現の共演

### ●造形教育の輪に感謝いたします

本大会の開催に際しまして、会場校の札幌市立澄川西小学校の児童・教職員・保護者の皆様に深く感謝いたします。また、授業・提言づくりから大会の運営に至るまで、手弁当でご尽力くださった、造形関係の先生全てに感謝いたします。さらに、作品提供や会場借用等を通して大会にご支援とご協力をいただいた、(財)PMF組織委員会、(財)札幌市芸術文化財団、札幌市立幼稚園長会、(社)札幌私立幼稚園連合会、札幌市立小学校長会、札幌市立中学校長会、北海道高等学校長協会、北海道特殊学校長会に深く感謝申し上げます。

さて、21世紀の人類はどのような進歩を遂げるのでしょうか。我が国は、果たしていかなる未来を手にするのでしょうか。不透明な未来の中に、もし確かなものがあるとすれば、「愛」の一文字ではないかと思えます。互いに理解し合える心のよりどころを探し求める要に、「愛」が必要です。子ども達同士、子どもと教師、子どもと保護者等それぞれが理解しあい、少しでも透明な未来を築けたらと思えます。その「愛」を支える要の一つに造形教育がなれたらと願っています。

●「造形・札幌21」と題した89頁の実践事例集も同時に刊行しました。また、「大会集録」を編集中です。



# 発信する造形教育の必要性

北海道造形教育連盟

本部研究部 研究部長 川島 正夫  
(札幌市立幌南小学校)

## 1. 基本コンセプトについて

本研究大会は、「北海道の子どもの現状を捉えるためのアンケート」をもとに、もっと「子ども達がくつくるの大好き」と、楽しみながら熱中する授業をつくり、子ども達に造形の素晴らしさを感じ取らせていきたい。」「もっと「保護者や教師、社会（地域）に造形教育のもつ価値や意義を発信していきたい。」という思いから出発しました。ですから、教材化の視点を身近な生活や子供の学習体験に求めたり、思いがふくらむような対象との出会いを求めたりしました。さらに、芸術の森など地域の施設との連携を強めたり、全校児童による造形活動や音楽とのコラボレーション、総合的な学習との関連などを図ったりすること、また野中真理子氏を困んで造形について語り合うことで、子どもや保護者、社会（地域）、そして何よりも教育に携わる教師に造形教育の価値や意義を発信できたと考えています。今回の取り組みは、新聞や「子ども未来博」などでも取り上げられました。小さな一歩かもしれませんが、人や文化、地域とつながることで、造形教育の素晴らしさを外に向けて発信していくことができたと考えています。

## 2. 公開授業・提言について

一番の成果として挙げることができるのは、多くの参会者のみなさんから「授業が良かった!」、「研究の主張と授業に整合性があつた。」という意見や感想をいただいたことだと考えています。その陰には、扉責任者を中心とした授業づくり、検証授業、細かな打ち合わせといった**部会で作る授業**という取り組みがありました。授業者一人に完全に任せてしまうのではなく、時間のない中、部会で検討を重ねたことが大きかったと思います。だからこそ、「よい授業を子どもにプレゼントしたい!」という授業者の思いが実を結んだのだと思います。特に、全校造形の取り組みは、澄川西小学校の先生をも取り込んでの取り組みとなりましたが、すばらしい造形ワールドが生まれたと思います。

しかし、我々からだけの見方ではなく、各授業を一緒に創り上げてくれた子ども達の感想をアンケートという形で集約し、その分析を行う中で、本大会で主張した**くつくるの大好き**、**確かな表現の実感**がどの程度実現されたのかを謙虚に検証していきたいと考えています。



## 3. 課題別分科会（3つの扉）について

校種の壁を取り払った「扉」という課題別分科会の考え方は、平成8年の札幌大会（札幌市立山鼻小学校会場）から継続研究してきたものです。「8つの扉」、



「5つの扉」、そして今回の「3つの扉」とその中身と数を見直しながら進めてきています。今回は扉の数を精選することで、「主張が分かりやすくなった。」という意見もいただきました。幼稚園から高等学校まで子どもの発達に寄り添った授業づくり、研究理論づくりはやはり連盟の宝であると再認識しているところです。今回は、子どもに対する指導にも重きを置いたため、より授業に直結した考え方になったのではないかと考えています。

しかし、「くらしと造形」、「こころと造形」、「つながる造形」という扉の持ち方に対して、「この3つは次元が違うものではないか?」、「つながる造形は何とつながるのか絞ったほうがよかった。」など、課題の持ち方については課題も残りました。今後、現状の造形教育を考えた時にもっとも大切にしなければならない要素やコンセプトを継続研究していきたいと考えています。

## 4. 今後に向けて

大会を終えて一番に感じることは、幼稚園から高等学校までを網羅した本連盟の大会の価値の素晴らしさです。今後は、大学教育や特別支援教育などとも連携することにより、「人の発達と造形教育のあり方」～造形教育における人づくり～に、より深く踏み込んでいきたいと考えています。

また、他教科や社会（地域）、人や文化などとのつながりを広げていくことで造形教育の価値や意義をより強く発信していきたいと考えています。

さらに大会を終えた今、造形教育の価値や意義を多くの人に実感してもらうためには、より多くの人に造形活動を経験してもらうことが重要であるかもしれない、という考えに立っています。大会の授業や活動における素晴らしい子ども達の姿を見て、さらに、多くの大人が実際に美的感動体験、表現活動の喜びの実感を体験することによって、造形活動の素晴らしさや必要性が広がっていくのではないかと考えています。

わたしたちの生活や社会が造形活動とのつながりを強めるために、これから造形教育連盟研究部も、新しい一歩を踏み出していきたいと考えています。

# 暑かった夏の2日間

～札幌大会を終えて～



幼稚園「Bくみわくわくランド」



小学校「むくむくわくわく」～大きくなったほく・わたし～



小学校「つなげてすてき、ながめてきれい」

## 幼稚園 こころと造形 分科会

### 提言を終えて

提言者：川 口 いずみ  
(札幌市立白楊幼稚園)

造形教育全道大会札幌大会を振り返ると、私にとっては初めてつくしのことばかりでした。大会に参加するのはもちろんのこと、提言者としての参加ということで、右も左もわからないところからのスタートだったのです。

幼稚園では教科学習ではなく、日常の遊びの中に、発達に必要な経験や教師の願いを込めて保育しているのです。造形教育という視点から子ども達の遊びをとらえるということも新鮮な経験となりました。幼・小・中・高と様々な校種の先生が参加される大会ということで、まずは、幼稚園生活や幼児教育に対して理解を深めていただけるようにということを大切に考えました。そのために、3歳児、4歳児、5歳児それぞれの幼児の遊びの実態や人とのかかわりを見つめ直し、違いを明らかにしてま

とめてみました。写真や幼児の実際のつぶやきなどを取り入れて発表しましたが、時間が許せばビデオなども使用すればよかったという反省ももっています。他の先生たちの提言や公開保育・授業も見ることができ、とても勉強になったのですが、もっともっと見てみたかったというのが正直な思いです。

今回は幼児教育の遊びの一つである「ごっこ」を通して、つくる・描くという造形活動について考えたり、学びを深めたりすることができました。小・中など異校種の先生たちとの出会いや情報交換ができたこともよかったです。年齢が高くてでもセロハンテープやはさみなどの扱い方が下手だったり、下品な話題に過剰に喜ぶ子がいたりするという話を聞き、子どもの実態に共通項があることを感じました。また、異校種の実践を学び合うことで、自分が対峙する子ども達の発達を見直す機会にもなり、今後、滑らかな連携を考える上でも役に立ちそうです。

楽しみながら経験を広げていけるような保育を心がけていきたいと思いました。

## くらしと造形 分科会

### 札幌大会を振り返って

提言者：岩 井 久 根  
(札幌市立三葉小学校)

今回、「くらしと造形」の扉で、「つなげてすてき、ながめてきれい」という造形遊びの実践をさせていただきました。

このような形の研究大会で授業をするのは初めてでしたので、今まで味わったことのない経験をいろいろとすることができましたが、その中で特に嬉しかったことが2つあります。

1つ目は、授業づくりの過程で教材研究をしていたときのことです。

私のクラスの児童は、ストローをこれまでの学習の中でも材料としてしばしば使っていましたが、ストローを主材料とした取組みは初めてで、正直、私は教材研究に苦戦していました。

そんな様子を見て、授業づくりに集まってくださった先生方が、ストローを手と一緒に試作をしてくれました。そして、み

んなで実際にあれこれと試しているうち、「差し込むだけでつなげられるよ!」「曲がるストローを使ったら、こんなことができるよ。」「ストローにブラックライトを当てたら面白いかも…」と、次々にアイデアが浮かび、そのうちに教室が遊園地のようになっていました。気が付けば、もうすっかり日が暮れて辺りは真っ暗。時間も忘れて夢中になり、おかげでたくさんアイデアをいただいたことがとても嬉しかったです。

2つ目は、研究会を終えて、子どもをバスまで見送ったときです。「よその学校まで飾っちゃっていいの?」と心配しながらも、当日は、自分たちの教室のように元気いっぱい活動した子ども達。思ったように製作ができ、また多くの方から声をかけてもらえたことを喜んでいました。そして、帰りのバスに乗り込むとき、「先生、楽しかったね。」と、子ども達は、今までに見たこともない素敵な笑顔で手を振ってくれました。

この大会を通して、ここには書き尽くせないほどたくさんの刺激と感動をもらうことができました。ありがとうございました。

## 小学校 つながる造形 分科会

### 造形遊び「どろんこパーク」

提言者：三 浦 麻 紀  
(札幌市立三角山小学校)

初めての全道大会で提言を担当させていただくことができ、とてもよい経験となりました。

授業づくりで一番大切にすることは、子ども達が思う存分「造形遊び」に浸り、全身で楽しさを味わえるような造形環境を整えることでした。今回の授業では、「土」にさわり、心地の良さや可塑性を生かし、学校の温室・教材園を使って思い思いの「どろんこパーク」を作り上げていきました。素材に浸ることによってやりたいことを次々に思いつき、子ども達の活動はどんどん広がっていきました。さらに、そこにハーブやヘチマ、ひょうたんが植えられ、かたちを変えてどろんこパークは続いていきました。場所を作り変え、友達と活動がつながり、異学年と思いを共有し、楽しさがどんどん広がっていく様子を見て、

造形遊びの大切さを改めて実感しました。

大会当日の分科会では、たくさんのご意見をいただくことができました。小学校での造形遊びの価値やその手立て、見取り方など、今後に生かせる貴重なお話ばかりでした。

今回の実践を通して、子ども達の創造性や発想力の豊かさに驚かされましたし、より一層伸ばしていきたい力にも気づくことができました。授業づくりにかかわって、多くの先生方に造形遊びの大切さを教えていただき大変勉強になりました。

今後も、子ども達の造形活動がより豊かなものになるよう、がんばりたいと思います。



## 中学校 ころと造形 分科会

### 札幌大会に参加して

授業者：市川 雅 基

(札幌市立屯田北中学校)

初参加させていただいた今回の全道大会は、今年度から新規採用され、教員としてのスタートを切った私にとって大変光栄なことであり、大きなプレッシャーでもありました。

しかし、たくさんの先輩方に支えられ成功させられたことは、私自身に大きな自信となり、これからの教育活動へつながる大きな一歩になったと思います。そして、この貴重な経験の中で多くのことを感じる事ができました。

その1つは、各校種・各年代で積極的にお互いを理解し合い、つながりをもった教育活動を行うことが重要であるということです。

校種間の垣根を取り払い、育てたい力や目標、実践内容などについて交流を図って、自身の実践に生かしていくことが、生

涯、美術を愛好し、豊かな心を育もうとする児童・生徒の育成へとつながるのではないかと思います。

生徒が感性を働かせ、きらりと光る一瞬を見取るのが教師の仕事とするならば、例えば、小学校6年間で身に付けさせたい力や目標が、その次の中学校での活動へのモチベーションや成長のステップとなることが望ましく、そのため、つながりのある活動の中で、私たち教師が児童・生徒たちのきらめく一瞬を見つけ出し見取ることを続けていくことで、子ども達にとって「つくるの大好き」と感じられる生き生きとした活動になるのだと感じました。

これからも、今回の大会での感動と経験を忘れることなく、多くの交流を大切に、子ども達にとってより豊かな教育実践を行っていきけるよう努力していきたいと思っています。

最後になりますが、長い期間ご指導してくださった多くの先生方に心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

## 中学校 暮らしと造形 分科会 中学校授業検討会

### カラフルな本焼き皿の授業から

司会者：大 高 雅 子

(札幌市立平岡緑中学校)

～焼き窯が故障中で困っています。何かいい方法はないでしょうか～

授業検討会で出された質問だ。窯がなくて焼く方法は？私は八子先生の顔を少し見て、返答を求めた。八子先生は涼しい顔で、「んー、まあ、外で窯を作るのはどうですか。野焼きですね、窯の作り方は資料にありますよ。」と答えた。幾つかの方法から一番適切な1つを選んで答えているように見えた。そして、焼き物によい北海道の土を語り、その場で信楽粘土で皿を1枚作って見せた。参会者からも、もっと詳しく知りたいという思いが伝わってきた。

教材化から指導にいたるまで、私たちは自分がそのことをよく知っている必要がある。1つの教材で指導する内容の裏側には、

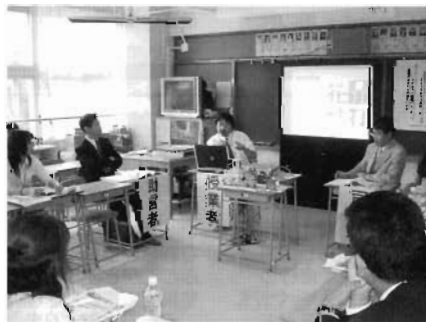
隠れている何倍もの知識や表現方法があり、ねらいに即しながら指導内容は淘汰されていく。夢中になって絵付けしている生徒たちの姿は、確かな指導が生み出した姿だ。「先生」と呼ばれたときは、シンプルかつ最良の言葉で返す。それは、何万の中から選ばれた一番適切な言葉。始まりと終わりの号令から見取れる、きちんとした躰を含めて、教師が指導力を発揮する授業らしい授業だったと思う。

ところで、「暮らしと造形」の扉。論立てしやすい扉だが、分科会の持ち方、話し合いの柱は他の扉とは異なった展開にした方がよかった、と後悔している。公教育に美術科が必要である論拠を示すべく、指導の成果が何に生きたかというところまで突き詰めた交流だったらどうだろうか。その点で、松本先生のリサイクル教材、松葉先生の指導後の作品追跡調査は、今後の研究にヒントを与え、可能性を広げていく提言だったと思う。

最後に、大会にかかわった全ての皆さんに感謝したい。



中学校「絵文字で伝えよう」



「ころと造形」中学校授業検討会より



中学校「思いをかたちに」

## 小学校

### 札幌大会に参加して

夏休みクラフト工房担当：藪 下 栄 一

(札幌市立観西小学校)

今回の大会の2日目、私は、札幌芸術の森主催の「夏休み特別講習《クラフト工房体験》」の運営を担当させていただきました。《クラフト工房体験》は「芸術の森」にあるクラフト工房で、小学生・中学生が、普段なかなか体験することのできない「ものづくりだす」ことに挑戦する企画です。専属の講師の方々が、「ガラス加工」「陶芸」「染色」の3つの表現方法をそれぞれ丁寧に教えていただきました。

私の担当場所に参加した子ども達は、芸術の森の近くにある常盤小学校の児童でした。子ども達はあらかじめ自分が挑戦したいことを選択してきており、すぐにそれぞれの工房に分かれて、制作を始めました。そこで私が驚いたのが、「ものづくりだす」子ども達の「目の輝き」でした。

彼らは、最初に材料と向き合ったときには、まだつくっていく見通しが持てずやや不安げな顔をしていました。けれど講師の方が丁寧に製作工程を説明していくことで見通しをつかむと、それまでの戸惑いの表情は、一瞬にして「ものを見つめる目の輝き」を放ちはじめ、そうすると、もう夢中になって制作にのめりこんでいきました。

ある子は、できあがりつつある作品を少し離れたところからじっと眺め、ある瞬間、ニコッと笑ったのです。また別の子は、細かいカッティング技術が要求される部分を、カッターの先を上手に持って切っていました。その子の視線はカッターの刃先にのみ集中し、終わった後は、安堵の表情を浮かべていました。

この《クラフト工房体験》に参加することで、子ども達の「ものづくりだす」エネルギーと造形感覚、そして「目の輝き」を間近に感じ、私自身も学ぶべき点がたくさんあり、素晴らしい体験となりました。

# 参加者の声



高校「映像メディア表現」



小学校「とんだ!とんだ!」

## 札幌大会を終えて

参会者：酒井 夕佳

(札幌 私立つばみ幼稚園)

今回の札幌大会での「楽しさあふれ、確かな表現を実感する造形教育」というテーマに興味をもち、参加させていただきました。

公開保育では、子ども達のなじみある「海」をテーマに活動が展開されていきました。

たくさんの教師に囲まれて緊張気味の子ども達も、活動が進められていくにつれて、海の世界に引き込まれ、のびのびと活動するようになっていきました。

一人ひとりが、各自の魚のイメージを膨らませ、さまざまな素材を使って「こうやりたい!!」と自分を表現する姿。また、教師や友達と見せ合いながら、刺激を受けたり、作品を見て喜び合ったりする姿に、子どもの発達段階に合った、造形意欲を刺激する題材であったの

だと感じました。

最終的にバルーンを使って一つの水族館という作品を作り上げたとき、子ども達の歓声と参加者の大きな拍手が沸き上がりました。

子ども達一人一人が作るプロセスから、みんなで作り上げたという喜びが、一人一人の子どもの表情から感じられました。

分科会では、教師も子どもの姿をどう見るかが大切で、「もっとやっていたいよ。」「素敵だよ。」と、子ども一人一人を認めていくこと。そして、最終的な達成点は教師側でなく、子ども自身の中にあることが、子ども造形意欲を育てるポイントだと、改めて教師側の環境構成と、子どもを見つめ援助できる確かな目と見取りが大切であると実感しました。

今回の研究大会で学んだことを自園の今後の保育の中で生かしていきたいと思えます。

参加させていただき、大変勉強になりました。ありがとうございます。

## 札幌大会に参加して

参会者：橋本 祥子

(札幌市立東山小学校)

今回、初めて大会に参加させていただきました。大会の存在を知らずにいたのを後悔するくらい、素晴らしい授業を参観することができました。

体育館で行われた澄川西小全児童による造形活動は、圧倒されるようなエネルギーに溢れていました。活動の終わりに、学年ごとに作品がライトアップされるたび、子ども達から歓声や拍手が沸きました。そこには「すごいな、きれいだな。」と思う気持ちを素直に表現する子ども達の姿がありました。

「彫刻の森の音楽会」という授業では、紙版画、ローラー、絵の具遊びなど、要素の多い活動を見事にまとめていました。たった1時間

の授業で、それまで彫刻と交流を続けてきた子ども達の授業の様子が思い起こされました。子ども達が黙々と活動に取り組む姿は、考える顔そのものであったと感じました。先生が活動の終わりを告げたとき、「えっ!!」という声が起こりました。「図工が楽しい、もっと描きたい、完成させたい!!」という、子ども達の声でした。まさに、私の理想とする「図工の時間」がそこにありました。

私が参観させていただいた授業の中で共通して感じたのは、子ども達の教師に対する信頼感でした。「きっと楽しいことができる。」というわくわく感、期待感が子ども達の表現から伝わりました。

大会に参加させていただくことで、日常の積み重ねを重視し、表現につなげていくことの大切さを再認識し、図工に対する思いを更に深めることができました。

多くのことを学ぶことができた今回の札幌大会でした。ありがとうございました。

## 図画工作科の魅力

参会者：小林 里枝

(札幌市立福住小学校)

初めて参加させていただいたこの大会では、「くらし」の扉に加わり、「用」と「美」から「くらしの中に生きる造形」、「くらし・環境を共有する造形」という2つの視点を通して、実生活と深く結びついている素材について考える機会が与えられました。ストーリーやペットボトル、ガラスといったゴミになってしまう素材を用いて、子ども達が生き生きと授業に参加する姿がとても印象的でした。しかし、それ以上にそれらの素材について、また子ども達により深い興味・関心をもたせるために、「どのように視覚的にうったえられるか。」「子

どもの創造力を引き出すために、どのような教師の発言がより効果的か。」などを話し合ったり、事前授業にも力を入れて取り組むなど、授業について熱心に追求する諸先生方の姿に感銘を受けました。

授業を行う上で当たり前のことなのでしょうが、研究大会ということもあり、内容の濃い話し合い。僅かな時間でしたが、そんな話し合いの場に参加させていただいたことで、普段自分では気が付くことのできない事柄に気付いたり、教材研究の過程でもいろいろなことを学ぶことができ、私自身、図画工作科の楽しさを伝える立場の者として、今後更に精進しなければならないと、身が引き締まる思いでした。

そして、何よりも、興味・関心を掻き立てられ、創造意欲が刺激された「子ども達の創造力」は、大人たちが時間をかけて努力し、計画した授業というものにも勝る、素晴らしい魅力をもっていることを改めて実感した大会でした。

## 素材と人の触れあい

参会者：佐々木 芳徳

(帯広市立帯広第八中学校)

三角山小学校、三浦先生の提言では、2年生が温室菜園でどろ遊びをしていました。

土と水を混ぜてこねる、団子をつくる、溝を掘る、水を流して川をつくる……。ここまではまさに遊びですが、積んだり丸めたりした土や川の溪相を変えず、5年生にハーブを植えてもらった。そして、先輩と一緒に手入れをする。5年生も「ここから水を流したらいいよ。」などと、兄さん姉さんらしいかわり方をしながら、でき上がった菜園は、縦横整地された形をしているが、親しみのあるものになっていたそうです。

「造形遊び」と聞くと、やりっぱなし・作りっぱなし、という印象

が強いのですが、この実践は遊んだだけで終わらず、活かしていったことが素晴らしい。

さて、私の中学校では先日、水節粘土を砕き、水に浸してもどし、粘土の粉を混ぜて練ったところ、生徒が、「どろんこ遊びは幼稚園以来だ。」と言っていました。土の感触を思い出し楽しんでそうです。張り子制作の一過程ですが、土に親しみ、作品として形を残したいと思っています。

「土は人を優しくする」とある方が分科会でおっしゃっていましたが、老若男女を問わず、土は人を惹きつけるものようです。

しかし、粘土ばかりいじっていると、人間粘っこくなるな、とも思えます。木を彫る人と石を彫る人とも人柄が違ってくる、というようなことを、彫刻家の「本郷 新」が本に書いていました。金属など、さまざまな素材に触れて「ものづくり」を続けていきたいと考えています。



来年は「釧路」でお待ちしています。

# 第57回全道造形教育研究大会釧路大会

## 釧路大会研究テーマ

「できた!」「いいね!」の喜びが息づく時間を求めて  
釧路大会研究主題

つくる喜び・感動する心をつなげていく造形教育

「つくる喜び」と「感動する心」は、まるで呼吸のように循環しながら、子どもの中で高まってきます。そのより良い空気や環境を、私たち指導者も共につくり出しています。釧路だけではなく、特に地方郡部においては図工美術の専門教師が激減している現実があります。そういう中でも子どもが「できた!」と喜び、「いいね!」と感動する声や息づかいを生み出す造形教育を私たちは求めてきました。前回の釧路大会から12年。きっと私たちの「くしろスタイル」の中から皆さんに提供できるものがたくさんあると思います。是非来年は釧路の地にお運び下さい。



小学校プレ研「流木で作ろう」小4

**会期** 平成19年7月26日(木)  
**会場校** 釧路市立芦野小学校

085-0061 釧路市芦野1丁目13番1号

TEL 0154-37-2151 FAX 0154-37-2161

### 大会日程

8:30	9:00	10:30	11:10	12:20	13:00	14:10	16:00	18:00	20:00
	<b>公開授業</b> <b>階段式授業公開</b>			授業検討1	昼食	授業検討2	課題別分科会		
受付	幼稚園2本 特別学級1本 小学校6本 中学校3本 高校1本	開会式 全体会	<b>分科会</b> <b>【見る・感じる】(小中高)</b> <b>【かく・つくる】(小中高)</b> <b>【考える・工夫する】(小中高)</b> <b>+【幼稚園】【特別学級】</b>				レセプション		

- ・公開授業 : 領域毎に開始時間に差をつけて公開します。導入の全てを見る事ができます。
- ・授業検討1,2 : 公開した授業について領域別、校種別に会場を設定し、昼食を挟み午前と午後2回に分けてたっぷり研究討議をします。
- ・課題別分科会 : 提言を交えて、小中校合同で課題別テーマに基づき交流と研究を深めます。

《連絡・問い合わせ》釧路造形教育研究会事務局 高橋 潤

釧路北陽高等学校 Tel0154-41-4401 fax 0154-41-0344



中学校プレ研「金属腐食プレート」中2

### あとがき

札幌は例年になく温かい初冬を迎えています。暑く、そして、忙しい中にも楽しく充実した札幌大会の2日間を思い出しながら、連盟報123号の編集作業に取り組んで参りました。7月26・27日の両日は、全道の地区サークル会員の方々をはじめ、広く全国各地から造形教育の関係者が集い、大変な活気でした。そんな札幌大会の様子を、本号を通じてあらためてお伝えすることができたなら嬉しく思います。

ご多忙中にもかかわらず多くの方々から原稿をお寄せいただき、心より感謝申し上げます。

<北海道造形教育連盟 広報部>  
中山 龍雄・小林 充裕  
土肥 宏充・松本 和彦  
畠波 修・山室ゆかり  
伊藤 聡美・平井 歩  
東 尚典